

人類進化学者



海部陽介さん

「3万年前の人類を知りたい」という好奇心から祖先たちの航海を再現

プロフィール (2021年4月)

東京大学総合研究博物館教授。原人からホモ・サピエンスにいたるまで、200万年間のアジア人類史について研究。前任の国立科学博物館で「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」を実施(関連著書に『サピエンス日本上陸』)

Q 人類進化学者になろうと思ったきっかけは?

天文学者だった父の影響で、小学生のころから研究者になりたいと思っていました。家には科学から歴史まで幅広いジャンルの子ども向けの本があふれ、「興味のあることを探してほしい」という父の想いを感じます。

私はあまり読書家ではなかったのですが歴史の本は好きで、特に伝記をよく読んでいました。つくられた物語より実話に興味があったので、歴史のほかにも化石が好きだったので、大学で人類学を学ぶことにしました。

Q 現在、どのような仕事をされていますか?

アジアを中心に、人類の進化の歴史を探る研究をしています。専門分野は、形態人類進化学です。

2007年ごろから、2万年前の沖縄島にいた港川人の化石研究のため、沖縄へ調査に入りました。「どのようにして、この地に人が現れたのか」という疑問から、思いついたのが「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」です。

Q 「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」とは、どのようなプロジェクトですか?

日本人の最初の祖先は、約3万年以上前の旧石器時代に、大陸から日本列島へ渡ってきたと

考えられています。その道は容易ではなく、大きな海の壁が立ちはだかっていたのですから、祖先は海を渡ってきた「偉大なる航海者」だったのです。

台湾と沖縄の間にある世界最大の海流・黒潮をどのように越え、日本列島に到着したのか。このプロジェクトは、その挑戦と技術を知るための検証実験です。台湾-与那国島間のおよそ225kmを、男女5人が手漕ぎの丸木舟に乗り、45時間10分かけて渡りました。

Q 壮大なプロジェクトだったんですね。どのような研究メンバーが集まったのですか?

人類学、考古学、民族学、海洋学、植物学などの第一線の専門家が集まったほか、舟漕ぎに長けた海の探検家、大工、医師など、総勢60名にのぼるメンバーがチームとなりました。これほど多くの分野の専門家がチームをつくる機会は、なかなかありません。自分の専門外の人たちと協力し、できないことを補い合って1つのゴールを目指すのも、研究の面白さだと思います。

Q 航海について、こだわったことを教えてください。

できるだけ、3万年前に近い条件で行うことです。例えば「舟の漕ぎ手は、地図、時計、GPS、

コンパスなどをもたない」「伴走船から、位置や針路についての情報を教えない」「男女が同数の集団で行く」「漕ぎ手は途中交替しない」といったことです。舟の素材も試行錯誤しました。最終的に丸木舟であったと結論し、大木を石斧で削って舟をつくりました。

Q 最終的に丸木舟であったと結論を出すまでに、どのような試行錯誤があったのでしょうか?

旧石器時代の人々が入手できる材料と道具を使うことが重要でした。2016年にはヒメマギという草を束ねてつくった草舟のテスト航海で失敗しました。2017・2018年は竹をいかだのように組んでつくった竹筏舟で挑戦しましたが、これでも黒潮を渡れませんでした。

「きっと祖先たちも、つくっては失敗し、改善することを繰り返したはず」と考えながら、試行錯誤を重ねました。失敗ばかりでしたが必ず答えは見つかると思って、第3の候補であるスギの丸木舟にたどりついたのです。

Q このプロジェクトから、どのようなことがわかりましたか?

祖先たちについて漠然としたイメージは「石器しかもっていない、かわいそうな人たち」といったものでした。しかし彼らは、星の位置と波の向きから方向を確認し、黒潮を渡ることに成功したようです。自然からの確なヒントを読み取って生き抜く、賢さと力強さをもっていたと実感しました。

Q 仕事をするとき、大切にしていることはありますか?

研究で常に心がけているのは「相手の立場に立つ」ことです。このプロジェクトでも、現地へ行く、祖先たちと同じ風景を見る、3万年前の道

具や方法で海を渡るといった「祖先の立場に身を置いてみる」ことが大切でした。だから机上で考えていたこととは違う、多くの新しい発見を得られたのです。

Q 最後に、高校生へのメッセージをお願いします。

私を突き動かしたのは、「3万年前の人類を知りたい」という「好奇心と挑戦心」です。身のまわりに好奇心のアンテナを張って自分の気持ちに敏感になってみると、だれにも「これは何だろう?」「おもしろいな」といった“小さな発見や感動”があるはず。研究にとって重要な発想の源となるその気持ちを意識して追究してみると、生物の世界、人間の世界は奥深いものだといふことに違いありません。



▲ 丸木舟の「スギメ」に乗って実験航海中のようす



▲ 草舟の上に座る海部さん